

白菜栽培 山鳩保育園（京都府八幡市）

<2歳児>

9月8日《1日目》 米袋に白菜を植える

長いスコップに足をのせてぐっと力を入れたりして、上手に米袋に土を入れていく。米袋に竹串で穴をあけていく。最初は上手く穴をあけられなかったが、次第に上手にあけられるようになる。指で土に穴をあけ、種を入れていく。種の大きさに驚いていた。水やりをする。「白菜」という言葉を初めて耳にする子がほとんどだった。



9月9日《2日目》 「起きる」(発芽) ことを楽しみにする

保「白菜まだ寝てはるわあ」
 ♪「もう起きる時間ですよー、おやつですよー」
 ♪「まだ起きはらへん」「早く起きないとおやつのおかわりなきなるからね☆」
 ☆ 保育士が子どもたちを起こす時に言っている言葉を白菜に向かって言っていた。

9月10日《3日目》

小さな芽がところどころ出ている。
 ♪「あっ！やっとなあ！ちっちゃくてかわいい♪」

9月11日《4日目》大きくなっていくことを楽しむ

茎が少し伸びている。
 保「昨日とどこが違うかわかる？」
 ♪「ちょっとだけ背おっきくなってるー！！」と言って、指で「ちょっと」の大きさを示す。

9月13日《6日目》

葉が大きくなっている。また、くっきりと二枚の葉に分かれている。
 ♪「あっ、ちょうちょみたい！！」 ♪「お花にも見えるー！！」

9月21日《14日目》

葉が六枚に増え、大きくなっている。
 ハートの形の葉とギザギザの葉の二種類存在している。
 保「ギザギザの葉っぱ痛いかどうか触ってみて？」
 ♪ 葉っぱを傷つけないよう優しく触り… 「あっ、ふわふわや！」
 保「ほんとやね。ギザギザの葉っぱなんか毛はえてない？」
 ♪「ほんまやなあ！犬と一緒にやあ！犬も毛はえてるもん！！」
 保「ハートの方は毛はえてないのに、何でギザギザの方は毛はえてるんかなあ？」
 ♪「ふわふわやからかなあ？だって犬もふわふわやもん♪」

サラサラして
いて表面
はうすい。

ギザギザ
して表面
もぶあつい。

9月24日(金)《17日目》 白菜を間引く

たくさん芽が出て育っているのので、一つの米袋につき三つの芽になるよう元気でない芽から間引いていく。また、芽が出ていない米袋には、間引いた芽の中から元気そうなものを選び植えていく。

間引いた芽をおひたしにしてもらい、食べてみた。しっかりと白菜の味がして、子どもたちも「おいしい♪」と喜んで食べていた。「もっと食べたーい！！」と口々に言っていたので、「じゃあ白菜みんながお腹いっぱい食べられるくらい大きくなってほしいね」と声を掛けると「じゃあいっぱいお水あげよー♪」などと言って、白菜が早く育ってくれるのをとても楽しみにしているようだった。

10月6日《29日目》

白菜を間引く。(二回目)「うんとこしょ、どっこいしょ」とつぶやきながら抜く。一回目の間引きの時よりも白菜が育っていたため、少し力を入れないと抜けないようだったが、抜けた時の喜びは大きかった。
 米袋からはみ出そうなほどたくさん葉が増えているので葉っぱの数を数えてみる。
 1～5までは正確に数えられるが、5をすぎたところで同じ葉を数える姿が見られた。一番大きいものは15枚の葉になっていた。

10月21日《44日目》葉っぱの様子に興味をもつ

葉っぱに白い部分ができてきている。
 「この白いのなんやろう？」「木みたい！！」と、口々に言う子どもたち。
 白い部分を触ってみると、「ここ硬いわあ」と驚いていた。
 また、一枚の葉っぱがとても大きいので、子どもの手何個分に値するか測ってみると、4個分だった。そこで一言。「こんなにおっきかったらもう食べられるわあ」

10月29日(金)《52日目》

保「台風きてたけど白菜どっか飛んでいっちゃってないかなあ？」

④「ほんまやなあ！でも白菜もうおっきいから飛んでいかへんのとちがう？」
見に行ってみると、葉っぱの中の方だけがまっすぐ上に向かって何枚も覆いかぶさり、巻いていた。白い部分は日に日に太くなってきている。

④「あれ？中見えへんくなってー」

保「何で隠れはったんやろう？」

④「もう寒くなってきたからかなあ？」「暑くなるとまた中見えるんちゃう？」

※ 子どもたちなりに一生懸命考えてくれていたのでとても嬉しく思った。



1 1月4日 (木) 《58日目》

日に日にしっかりと巻かれている。

チクチクしていた葉っぱの毛が抜けたのか、触ってもチクチクしなくなってきている。

保「お水いっぱいあげてるからやわらかくなった」「もう痛くないなあ。もうやさしくなった」

保「この巻いてある所、何かのお花と似てない？」

④「えっ何？教えて！！」

保「さーいーたー♪さーいーたー♪」

④「ほんまやチューリップみたい！！」

④「ほんなら白菜とチューリップお友達なんやわあ」

※ 外側の葉っぱも巻いたら食べられると思っていたが、白菜は内側だけ巻くものと教えてもらい、とても驚いた。



1 2月22日 (水) 《106日目》触ってみる

1 1月中旬から、見た目あまり変化がなく、つぶやきも聞けなくなってきている。

変化がわかりづらいため、手触りで変化を感じることにした。

★ 白菜を触ると・・・

④「先生～、前は触るとチクチク痛かったのに今全然痛くないー！！何で??」

保「何でやろう？」

④「毎日お水いっぱいあげてるから白菜やらかくなってきたんかなあ??」

★ 巻いてある部分を触ると・・・

④「あれっ？こっちはめっちゃ硬いわっ！！」

「やっぱり寒い風入ってこーへんようにしっかりと隠れてはるんやわあ。白菜ってすごーい！！」
と、白菜に感激していた。

1 2月28日 (火) 《112日目》白菜を収穫する

2～3人で「うんとこしょ、どっこいしょ」と引っぱるものの「抜けへん！」。そこで、左右に回しながら抜くと抜けやすいことを伝える。「抜けたあー！おっきいなあー！先生の顔よりもおっきいで！」と、重たい白菜を嬉しそうに抱きかかえていた。コツをつかんだようで、力のある子は一人でも抜くことができていたので驚いた。

収穫祭の時にお汁（すいとん汁）の中に入れて食べる。

収穫した白菜は、虫に食べられているところが多く、あまり食べるところがなかった・・・

保「このお汁の中のどこに白菜はいつてるかわかるかなあ？」

④一生懸命さがすものの、「・・・わからへん。白菜おらへん！！」

保「お汁の中に入ったら白菜さん、こんな色に変身するよ」と白菜をみせると・・・

④「あっ！白菜あった！（ぱくっ・・・）おいしい！」口々に言い、大喜びだった。

まとめ 白菜を当初は知らなかった子どもたちだが、毎日の観察を通して特徴を感じ取ったようで、他のクラスの子に、「これが白菜で、まだ赤ちゃんやけど、お水いっぱいあげるからもっとおっきくなっていくねん！」と得意気に話す姿が見られた。また、白菜のことを自分の弟妹のように愛情をもって水やりをする姿も見られた。白菜を観察する中で、子どもたちのユニークな発想が言葉に表れ、2歳児なりにイメージをふくらませながら成長を楽しみにしていることが分かった。また、登園時に母親となかなか離れられなかった子が、「白菜見るから、バイバイ」と気持ちよく離れられるようになり、白菜を育てて本当によかったと思った。

みどころ

一人ひとりの子どもから出る言葉は多くを語ることはなくても、毎日のかかわりの中で、子どもたちの言葉を取り上げて積み重ねると、栽培物への気持ちや気付いていることが変容していることが見えてきます。夏野菜の栽培の後に「種をまいて育てる」という経験を重ねることになり、色々な変化に気付くことができる白菜は教材として効果的でした。自分たちの手で葉の大きさを感じたり、触ることで特徴に気付いたりすることができるように、保育者が子どもたちの興味を引きイメージしやすい言葉かけをしています。こうした積み重ねにより、葉の大きさや色、硬さなど変わっていくことを感じて成長を楽しむ栽培活動になりました。